

平成4～10年度種苗需要調査結果

多和田 真 周

1. 目 的

平成3年から毎年、市町村・漁協を経由して養殖用、放流用種苗の需要調査を実施してきた。実施時期は年度によって若干の変動はあるが12月から1月にアンケート用紙を送付、1月下旬までに回収、2月下旬までに普及所が取りまとめ、水産振興課に進達、その結果は栽培漁業センターや水産試験場に連絡、両機関はその数値をその年度の種苗生産数量の指標としている。

2. 対 象

関係漁協・団体

3. 協力機関

水産振興課・関係市町村

4. 経 過

① 魚類養殖用種苗の傾向

マダイは栽培漁業センターで昭和63年から種苗生産が開始、H元年度から栽培漁業センターにおける種苗生産数が大幅に増加したことからH4年には100万尾の需要があったものの、H5～6年は100万尾台を下回った。特定区画漁業権を取得してないこと、漁港内での魚類養殖が制限されたこと等によるものと思われる。H7年からは年々上昇傾向を示し、H9年には過去最高の170万尾台の数値に達したもののH10年は150万尾台に減数した。

これは一部業者については県内種苗以外に独自で県外種苗業者（大分・宮崎・愛媛・鹿児島等）から購入していること、また、クロカンパチの導入に関連していることが考えられ、クロカンパチの養殖が安定してくると今後、マダイ種苗の要望数量の減少傾向がみられると思われる。

ハマフエフキについてはH2年から栽培漁業センターにおける種苗生産数が大幅に増加したことからH4年には要望数が50万尾台の数値を示したものの、H4～5年には要望数の減少になったことからマダイと同様の要因が考えられる（特定区画漁業権の無取得、漁港内養殖禁止）。H7年には70万尾台の最高数値を示したものの、その後は40～50万尾台の需要数量となっている。

マダイのように上昇傾向を示さない要因として、種苗生産の不安定さ、それに関連して養殖用種苗としての割当数量の少なさ、それに他魚種と比較して成長が遅いこと等が考えられる。

チンシラーはH3年度に76万尾生産されたものの他の年度は生産が順調でなく、需要量もH4年度の45万尾をピークに年々減少傾向を示し、H10年度は4万尾の数値となっている。減少傾向の要因は種苗生産の不確実さにあると思われる安定した種苗生産が望まれる。

上記3種以上に要望数が多い魚種としてはヤイトハタ、クロカンパチ、カンパチの順となっている。いずれも種苗の生産あるいは供給が確実であること、成長や価格の面で有望であることが考えられる。

その他の要望魚類としてはハマチ、シマアジ、スジアラ、ミナミクロダイ、イシダイ、イシガキダイ、クロマグロ、ヒブダイ、ヒレナガカンパチ、シモフリアイゴ、ゴマアイゴ等があげられており、早急に種苗供給体制の確立が望まれる。参考までにイセエビや貝類（トコブシ、タカセガイ、ヤコウガイ、チョウセンサザエ）等が毎年、要望としてだされている。

② 放流用種苗の傾向

これまでに放流用として生産された種類としては県栽培漁業センターは魚類として主な魚種

にハマフエフキ・チンシラー、貝類としてヒメジャコ・ヒレジャコ・タカセガイ・ヤコウガイ・甲殻類として、タイワンガザミ・その他シラヒゲウニがある。

日本栽培漁業協会としてはカンパチ・シマアジ・スジアラ・ノコギリガザミ・コブシメ等がある。ハマフエフキは国庫補助事業として昭和58～59年から放流が開始され、平成6年事業終了年により県としての事業を断念、その後は各団体、単協による放流事業が継続されている。そのような状況にあって、H5年度は2万尾の要望数がH6からは急激に上昇し、H9～10年度は80万尾台の数値となっている。ハマフエフ

キについては養殖用種苗は年々減少傾向であるが放流用は逆の傾向を示している。

チンシラーはH3年度に70万尾台の量産化が可能となったことから放流用・養殖用として有望魚種とされているが不安定な生産実績のためか30～40万尾台に推移している。

中城湾海域においては標識魚の採捕が多くみられることから種苗の安定供給が望まれる。

シャコガイ類についてはH5年には20万個の要望数量であったがH6年には約50万個に増加しかし、種苗生産数量の減少傾向から配布先が養殖用の割合が増加したことから、年々放流用需要数が減少してきている。

各種類別年別の養殖用種苗需要状況

	マダイ	ハマフエフキ	チンシラー	ヤイトハタ	スギ	カンパチ	ヒメジャコ	ヒレジャコ
平成4年	960,000	452,500	324,500	—	—	—	—	—
平成5年	760,000	312,000	60,000	—	—	—	—	—
平成6年	886,000	325,000	185,000	—	—	—	343,000	202,500
平成7年	1,133,500	642,500	264,500	—	—	—	455,000	153,000
平成8年	1,505,000	441,000	95,000	—	—	—	440,000	237,000
平成9年	1,783,000	472,500	60,000	—	(125,000)	—	370,000	355,000
平成10年	1,503,000	364,500	40,000	186,000	119,700	103,000	300,000	351,000

※上記以外に要望している種類としては

ハマチ・シマアジ・スジアラ・ミマミクロダイ・イシダイ・イシガキダイ・クロマグロ・ヒブダイ
ヒレナガガンパチ・シモフリアイゴ・ゴマアイゴ・トコブシ・タカセガイ・ヤコウガイ・イセエビ
チョウセンサザエ

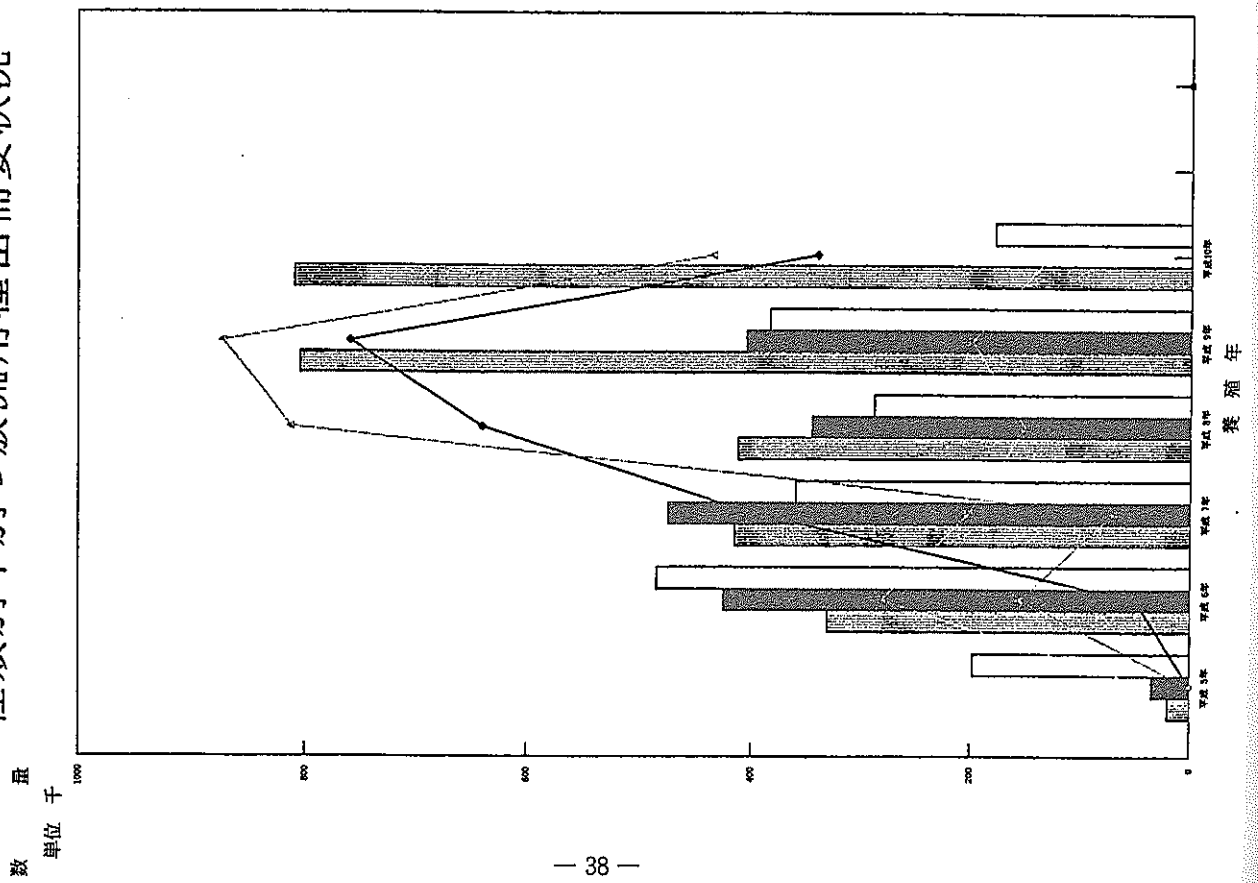
各種類別年別の放流用種苗需要状況

	チンシラー	ヒメジャコ	ヒレジャコ	タイワンガザミ	シラヒゲウニ	ハマフエフキ
平成4年						
平成5年	35,000	197,000	35,000	—	—	20,000
平成6年	425,000	485,000	281,000	50,000	155,000	330,000
平成7年	475,000	359,500	201,500	400,000	70,000	415,000
平成8年	345,000	288,000	150,000	640,000	813,000	412,000
平成9年	405,000	383,500	198,500	760,000	872,000	805,000
平成10年	308,000	178,000	128,000	340,000	435,000	810,000

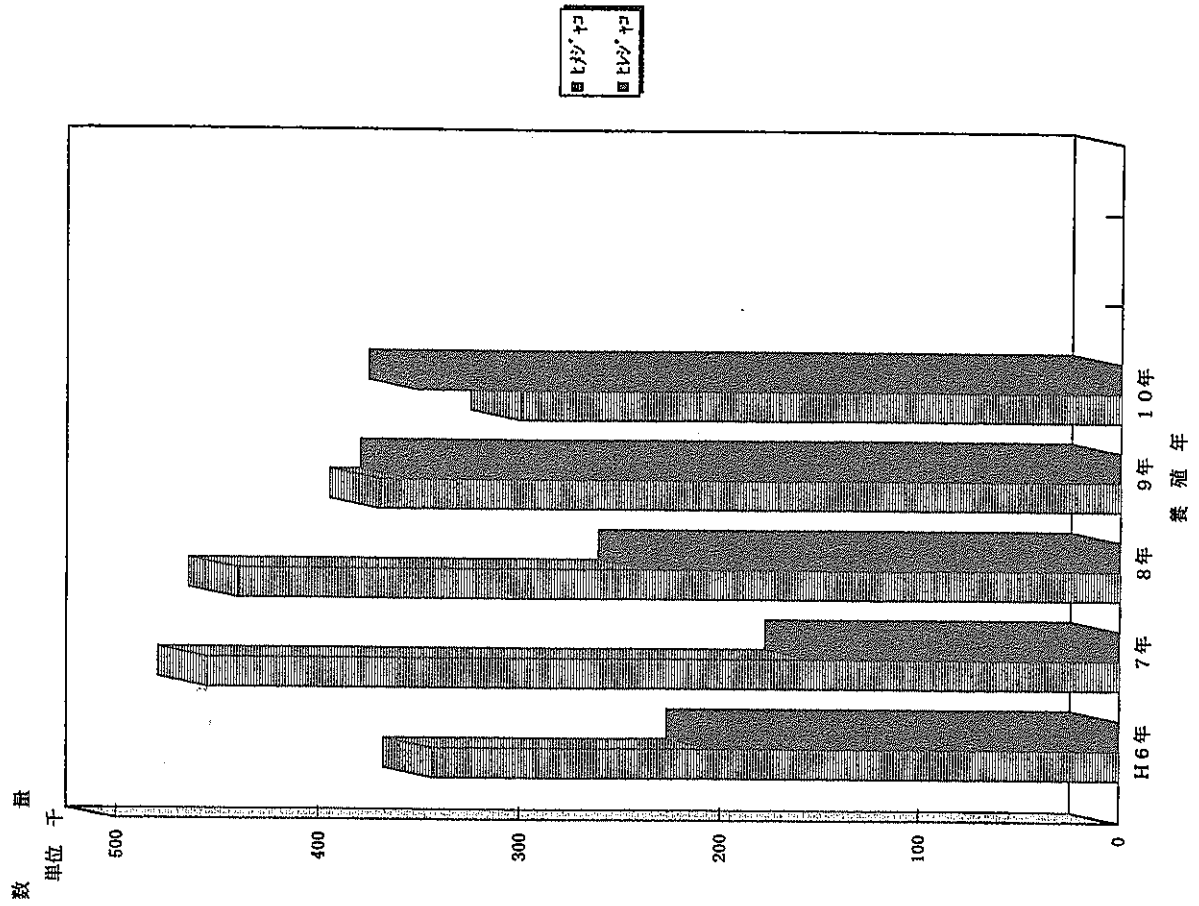
※上記以外に要望している種類としては

カンパチ・シマアジ・スジアラ・ヤイトハタ・シロクラベラ・ヒメフエダイ・イトヒキフエダイ
タイワンダイ・アマダイ・ノコギリガザミ・タカセガイ・クモガイ・マガキガイ
チョウセンサザエ・ヤコウガイ・コブシメ

種類別年別の放流用種苗需要状況

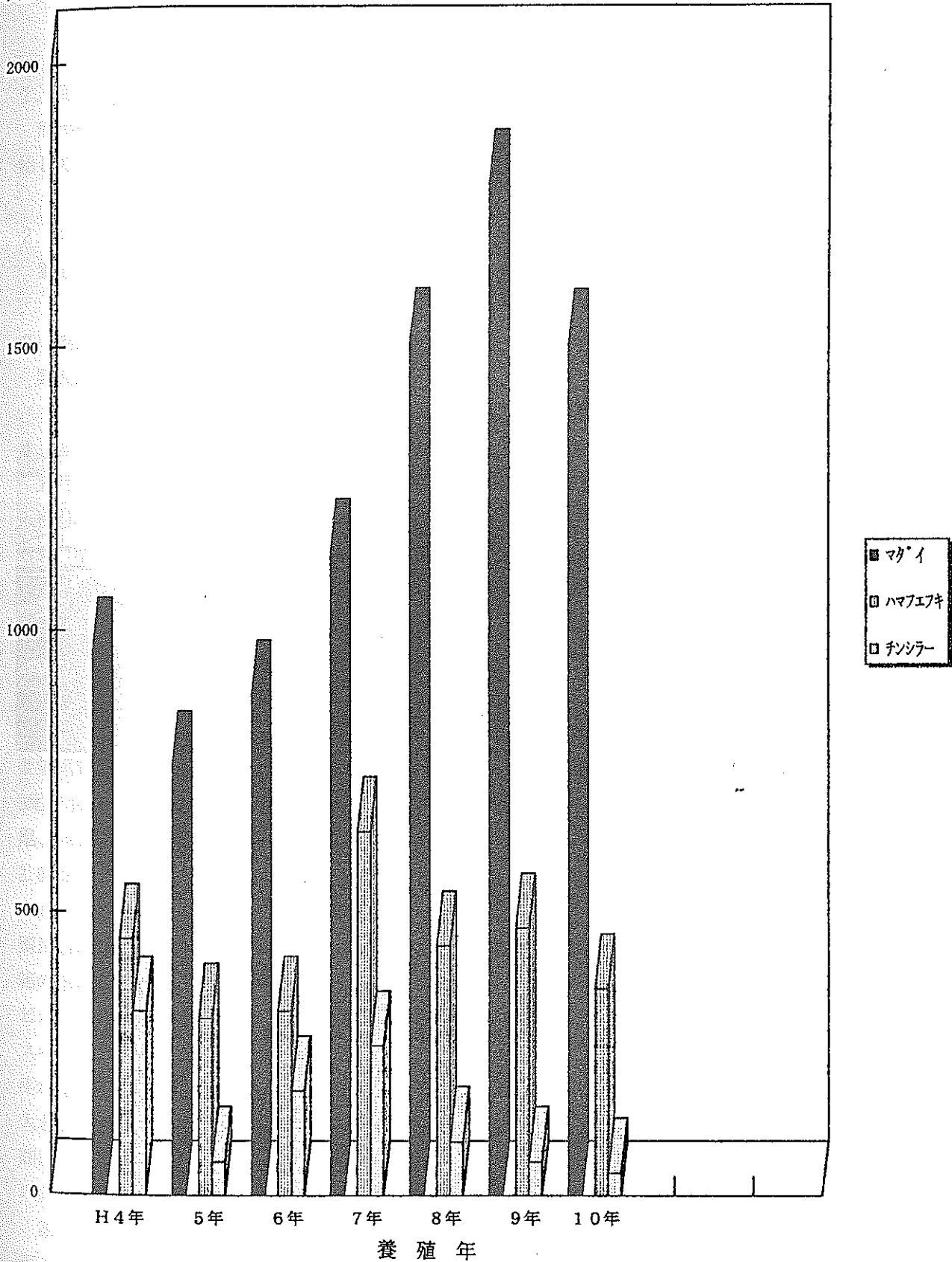


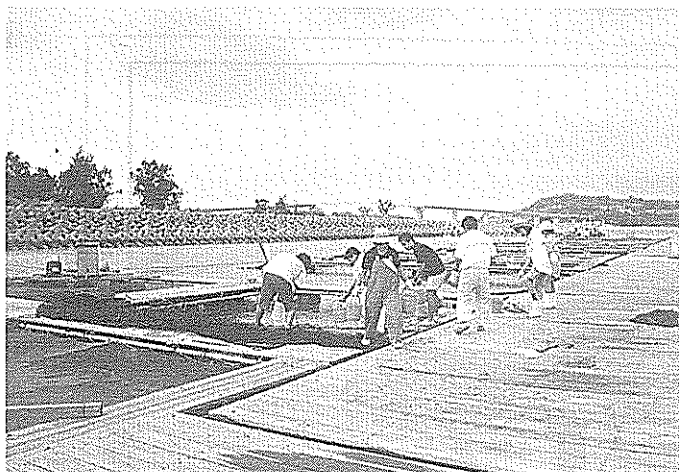
種類別年別の養殖用種苗需要状況



種類別年別の養殖用種苗需要状況

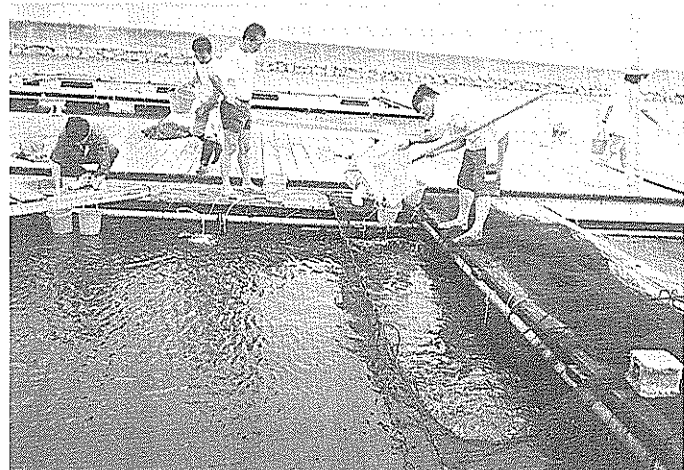
数 量
単位 千





栽培漁業センター地先の
中間育成施設における
稚魚の出荷作業

ハマフエフキ稚魚（50mmサイズ）
の種苗配布
栽培漁業センター地先の
中間育成施設



バケツリレーによるハマフエフキ
大型種苗の出荷作業
活魚水槽使用による輸送